

仏前の唱歌一首

一五九四番

しぐれの雨 間なくな降りそ 紅に にほへる
山の 散らまく惜しも

大伴宿禰像見の歌一首

一五九五番

秋萩の 枝もとををに 置く露の 消なば消ぬと
も 色に出でめやも

大伴宿禰家持、娘子の門に至りて作る歌一首

一五九六番

妹が家の 門田を見むと うち出来し 心も著
く 照る月夜かも